

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

一人ひとりの心から

何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。(ヤコブの手紙4:1)

今年の2月24日(木)、対立と緊張の続いていたウクライナとロシアにおいて、ついにロシアが軍事侵攻を開始しました。

大国が国家間の対立を武力で決着することがまかり通るのであれば、世界のあらゆる場所、日本の近隣でも同様のことが起こり得るのではないかと危惧されています。

聖公会の教会でもウクライナ侵攻の一日も早い終結を祈っていますが、4ヶ月を過ぎた今でもその目処はたっていません。

ウクライナとロシアの平和と全ての犠牲者の魂の平安をお祈りしたいと思います。

一人ひとりの心から

ところで、そうした世界情勢の中で7月10日には参議院選挙が行われます。今回の選挙では経済や福祉と共に安全保障が争点に上がり、戦争抑止力としての軍備の拡張を主張する声も大きくなっています。

しかし「抑止力」という考え方はその背後に必ず恐れ、恐怖があるということです。そして恐れと恐怖に捕らわれている限り、真の平和は訪れません。まずは私たち自身がそうした恐れから解放されて、真の平和を仰ぎ求めることができるようにと祈ることから始めることが出来ればと思います。

一人ひとりの平和への祈り、良心や正義感などは、国や歴史、さらには世界を前にし

ては、ほとんど無に等しいと思いがちです。

しかし世界の真の平和、正義また調和は、一人ひとりの心の姿勢や行動から始まるのであり、またその逆に争いや戦い、戦争も、やはり一人ひとりの心から始まるのです。冒頭の聖句はそのことを明示しています。

互いに分かち合える平和

ヤコブの手紙は続いて「あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願ひ求めない(ヤコブ4:2)」からであると記しています。「欲する」という語は以前の聖書では「貪る」となっていました。

ここでは「欲する(貪る)」という態度と「願ひ求める」という二つの態度が語られています。両者はどう違うのでしょうか。

神に「願ひ求める」場合、神は私たちに良いものを与えようとされているという神に対する信頼が前提となっています。

一方、「欲する(貪る)」というのは、「与えてくれない。或いは奪われる」という不信と被害意識が前提となり、何としてでも自分の力で確保しようとする態度です。

そしてそれは争い戦いを生み、さらには人殺しまで行うことになるのです。

「分け合えば足りる。奪いあえば幾らあっても足りない」という言葉があります。恐れと不信から解放され、「互いに分かち合える」世界を目指すことが平和への道です。

私たちが自らの心に起る貪りに打ち勝って、一人ひとりの心に真の平和が与えられ、それがやがて世界の平和に繋がっていきますように祈って参りたいと思います。